

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス unico志免		公表日	2026年4月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・活動内容に応じて机などの配置を変え、子どもが見通しや過ごしやすい環境づくりを行っている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・月1回の運営MTGや毎日の支援の振り返りを実施し、全スタッフで業務改善に努めています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・全職員で保護者向け評価表の閲覧を行い、誠実に対応するとともに業務改善に取り組んでいます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者機関からの評価を受ける代わりに、本社職員を事業所に派遣して評価を行う内部監査を年2回実施しています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に1回程度、支援の質を向上させるための研修を実施しています。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者様への聞き取り、支援者同士での見立てを用いて計画を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		朝礼やケース会議等で共通理解の場を作り、職員みんなで同じ方針で支援できるように努めています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		子どもたちのやってみたいの実現のために子どもたちと一緒に作成することもある
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		毎日、5領域に沿った小集団活動(ワークショップ)と、自由選択活動を行い、自分で参加方法を選び、主体的な参加を目指しています。活動内容によって、屋外の公園や施設での活動も行っています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じ相談支援事業所を通じて情報共有することがある
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現状移行する場合は発生していない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		実施は計画を立て、定期的に行っていますが、保護者様への周知ができておりませんでした。今後の活動表に記載し周知するなどの検討をしていきます。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico志免		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 1日		2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な体験や学びに繋がるワークショップ活動の実践	お子さまの意欲を大切に、様々な発見や学びにつながるよう工夫しており、季節の行事や外出活動など、スペシャル感のある活動の提供も行っています。 発達段階や課題等を考慮し個別に活動内容の難易度を設定したり、やってみたいと意欲的に感じられるような活動の提示を心がけています。	ワークショップ活動の計画からお子さまと一緒にいう機会を設定するなど、さらに学びの機会につながる関わりを工夫・検討していきます。 社会的なマナーや将来に向けての準備等をワークショップを通して学べる機会を提供していきたいと考えています。
2	お子さま一人ひとりが安心して過ごすことができる環境づくり	一人ひとりの気持ちに寄り添い、コーチングベースでの関わりを大切にしながら一緒に考え自分自身で選択していくことを大切にしています。	研修や日々の振り返りを通して、職員がまずお子さまが発信することをありのまま受け止めることから関わりを始めることを徹底するなど、職員全員でお子さまが安心して過ごせる環境づくりについての認識を揃えられるよう努めてまいります。
3	お子さまのニーズに合わせた支援の提供	毎日、支援前に個々の計画書に目を通し、お子さまのニーズの確認を行い活動をきっかけに支援を届けさせていただいています。 また、支援状況の振り返りを毎日行い、ニーズに合わせた支援を届けられるよう努めています。	必要に応じて個別の面談や小集団での話し合いなどを取り入れ、お子さまのやりたいこと、挑戦したいことを引き出し、達成に向けての取り組み方を自己解決できるようサポートしていけるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	よりお子さまの個別のニーズに応えられる活動環境の提供	学習・運動・リラックスできる空間を分け、お子さまが選択できるように設定しておりましたが、そこまでに留まってしまっていたため、自身で目的に応じて空間を選択したり、環境の設定を工夫したりしていけるような関わりが必要だと考えております。	子どもが育つを信じ、お子さまと一緒に課題への向き合い方から一緒に考えていくことで、自身で考え、選択し進んでいけるよう努めて参ります。
2	それぞれのお子さまの育ちにつながる多様なコミュニケーション・交流機会の提供	長時間の小集団療育を通して、協同が発生する場面を設定しながらお子さま自身で自己選択し育ちに繋がるよう支援を行っておりますが、地域等とより多様な交流機会の提供を提供していくことでさらなる学びを深めていけるような機会の提供が必要と考えています。	お子さまや保護者様のご要望を伺い、必要に応じてunico内で他教室との交流会を企画したり、地域資源を活用する活動を企画したりしながら、様々な人たちとの交流機会の創出を検討しさらに学びを深められるよう努めたいと考えております。
3	保護者様の安心感に繋がるような情報の提供	安全管理に関する振り返りを毎日行ったり、事故や感染症罹患等の緊急時対応やその後の対策検討、非常時避難訓練の実施を行っておりますが、保護者様と内容の共有や対応について連携を深めていくことでより安心してサービスをご利用いただけると考えております。	連絡帳アプリ等を通して、避難訓練の実施なども含め、詳細な情報共有をするよう心がけます。保護者様とも日々の送迎時の共有など、細やかな連携を行い、お子さまも保護者さまも安心してご利用いただけるよう努めます。